



南多摩高次脳機能障害支援センター 平成 26 年度活動報告

永生会高次脳機能障害支援事業推進室

平野 彩 江村 俊平 渡邊 要一 都丸 哲也

【はじめに】

当法人は平成 25 年 6 月より、東京都高次脳機能障害支援普及事業「専門的リハビリテーションの充実」事業を受託し、南多摩高次脳機能障害支援センターとして活動している。本事業の目的は「高次脳機能障害者のリハビリテーションの質の向上と関係機関等の連携を進め、地域で高次脳機能障害の特性に対応した切れ目のないリハビリを提供できる体制の充実を図る」ことである。今回は平成 26 年度の事業結果を報告する。

【事業内容】

- ① 相談事業 ② 症例検討会及び圏域連絡会の開催 ③ 専門職向け研修の開催

【結果】

相談件数は 10 件であった。②症例検討会は 1 回開催した。連絡会は南多摩 5 市の行政機関担当者が集まる圏域連絡会を 1 回、町田市の医療施設・福祉施設の連携強化を図るための連絡会を 2 回行った。さらに協力施設連絡会と法人内の運営会議を月 1 回定例として開催した。③研修会は高次脳ゼミを 3 回実施し、参加者はそれぞれ 154 名、93 名、73 名、アンケート回収率は 73.1%であった。アンケート回答者の内訳は専門職 70%、当事者・家族 20%、行政職 2%、その他 6%。専門職の内訳は医療職 58%、介護・福祉職 42%であった。高次脳ゼミに対する満足度は 93.2%。その他に専門職向けの研修会として生活・就労支援セミナーを開催した。

【前年度との主な比較】

		平成 25 年度	平成 26 年度
相談件数		11 件	10 件
症例検討会		2 回	1 回
連絡会の開催回数		10 回	14 回
高次脳ゼミ	参加者	293 名	320 名
	参加内訳	専門職 57%、当事者・家族 33%、行政職 2%、その他 4%	専門職 70%、当事者家族 20%、行政職 2%、その他 6%
	専門職内訳	医療職 81%、介護・福祉職 19%	医療職 58%、介護・福祉職 42%

【考察および今後の展望】

初年度に引き続き、計画した事業は全て実施できた。相談件数は依然として少数であり、知名度の向上と継続した広報活動が必要である。課題であった介護・福祉職の研修会参加は増えており、今後とも連携を強化するための症例検討や講習会を開催したいと考えている。今後の課題として、連絡会の充実、家族会との連携、行政職との連携、ホームページの充実などがあがっている。